



Yesを言わない？全国学力・学習状況調査から

4月に全国の6年生に行った標題調査の集計から、本校児童の成長について分析しています。気になる傾向について紹介します。数値の単位は%です。県と全国の数値は調査数が多いので極端な差はありません。そこで、比較として県の数値を出します。

	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
問1	朝食を毎日食べていますか			
本校	81.8	18.2	0.0	0.0
県	83.6	9.6	5.2	1.6
問2	自分には、よいところがあると思いますか			
本校	9.1	54.5	36.4	0.0
県	38.9	44.1	11.7	5.3
問3	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか			
本校	0.0	90.9	9.1	0.0
県	44.9	44.8	7.4	2.8
問4	将来の夢や目標を持っていますか			
本校	27.3	54.5	9.1	9.1
県	60.1	21.7	10.6	7.6
問5	人が困っているときは、進んで助けていますか			
本校	18.2	81.8	0.0	0.0
県	44.0	48.5	6.7	0.9
問6	人の役に立つ人間になりたいと思いますか			
本校	63.6	27.3	9.1	0.0
県	72.1	24.3	2.7	0.9
問7	学校に行くのは楽しいと思いますか			
本校	18.2	54.5	18.2	9.1
県	49.4	37.6	8.5	4.6

■ 8月の振り返り

8月の集計公表時には、どの設問にも肯定的な回答(当てはまる+どちらかといえば、当てはまる)の割合が多かったことから、『素直さや正直さは素晴らしい。夢を見ないわけではない。やらないかんと思った時、動き出せる力をもっていたら自立していく。だからこそ、小学校の授業を魅力あるものにしていかなければならない』と、まとめています。

しかし、10月の市校長会で、教育長より「阿南市の児童は、他市町村の児童と比較して、当てはまる(はっきりハイ)との回答割合が大変低い。各校いかがですか」と問題提起があり、改めてまとめてみました。

□ 10月の振り返り

この表の問2～7は、教育長のお話の内容に照らし合わせて抽出しました。すると、「当てはまる」の割合は県のそれと比較してやはり低いのです。8月には「肯定的」ととらえていた児童の姿ですが、なぜ、はっきりハイと答えないのか？と、そこに課題はないのかと考えます。

子どもは、生まれながらに持つ力だけでなく環境と共に成長します。その育成環境として学校の在り方は肝に銘じて運営しています。それが、阿南市全体の数値が低いとなると学校だけではないのでしょうか。

毎日が驚きと発見の1年生のあと、3年間のコロナ禍、様々な行動制限、行事等の中止、黙食の給食…、エネルギーを抑えることが習慣化しているのか、発揮する経験の不足なのか。私たちはこの『はっきりハイと言わない』事実を受け止めて、児童の指導・支援に臨まなければなりません。



【タブレットを活用した授業：6年】

※ 夕暮れ時の交通事故が増えています。歩く時も、運転する時も十分注意しましょう。道路で遊ぶのは、キケンです。自転車に乗ることは車両の運転です。ご安全に。